

# 研究活動における文献の参照状況管理システムの構築

【 研究系卒研 ・ 制作系卒研 】

058134 本郷 宏明

(指導教員 速水 治夫 教授)

## 1 はじめに

新たに研究活動を始めの学生が、最初に参考とする可能性が高い文献は所属する研究室が所蔵する過去の論文である。しかし論文の参考文献は、論文完成までの研究活動の過程で執筆者が参照した文献をすべて網羅しているとは限らない。また論文の参考文献だけでは、執筆者が文献をいつ参照したのか不明である。これらの問題点を改善するため本研究では、研究活動において学生が参照した文献情報の管理と共有を行う参照情報管理データベースを構築した。

システムの構築にあたり、以下の2点を目的とした。1 つには研究活動の過程で参照した文献の履歴を蓄積管理することにより、参照した文献の履歴が明確となり、論文執筆時に再度文献を探す手間と参考文献を纏める手間を軽減する。さらに参照履歴の共有により、類似テーマを扱おうとする後進の学生は参考にした論文の執筆者が参照した文献を優先的に収集することを可能にする。

## 2 構築システムの概要

ログインしたユーザが参照した文献の履歴を登録していくことにより、参照した文献の履歴を一覧として表示する。またユーザが論文のタイトルを登録することで研究室の論文一覧に追加され、参照履歴が他のユーザに公開される。公開された参照情報を閲覧することで、類似テーマを扱う場合に有用な文献を発見する。図2に画面遷移図を示す。

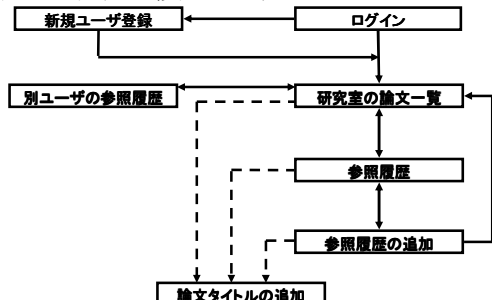


図2 システムの流れ

### 2.1 参照履歴の登録処理

参照履歴の登録処理の流れを図2.1に示す。参照した文献のタイトル、著者、年(書籍の場合は出版年、論文の場合は発表年度)、文献の種類(書籍、論文)を入力項目とする。書籍でISBN(国際標準図書番号)が判明している場合に、Amazon Web サービス(以下、AWS とする)を用いることで入力を簡易化することが可能である。

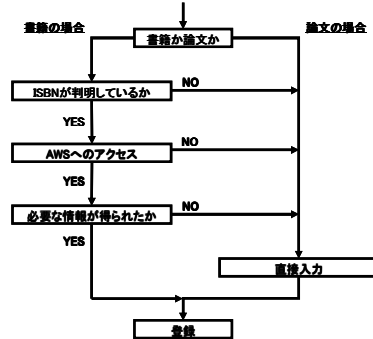


図2.1 参照履歴登録の流れ

## 3 評価結果

本システムが研究活動において有用かを評価するため、学生4名にシステム利用後にアンケートを実施した。

表3 アンケート結果

アンケート項目	劣 ← ----- → 優					平均
	1	2	3	4	5	
全体的な操作のわかりやすさ	0人	0人	1人	3人	0人	3.8
全体的な見やすさ	0人	0人	1人	3人	0人	3.8
別ユーザの参照履歴リストの見やすさ	0人	0人	1人	3人	0人	3.8
継続して使用したいと思うか	0人	0人	2人	1人	1人	3.8

以下のものが挙げられた。

- 参照文献の整理と他人の履歴から新たな文献を見つけられる点が便利
- ISBN がわかれば登録しやすく良い
- ランキングがあればおもしろい
- 参考にした理由がわからない

## 4 おわりに

評価の結果から、操作のわかりやすさ、見やすさ、継続性に関しては、まずまずの良い結果が得られた。参照履歴のリストも見やすいとの評価が得られたことから、いつ文献を参照したのかが不明瞭である点は改善できた。また論文の参考文献を纏める時にも良い効果が期待できる。しかし、改良の余地も見つかった。今後の課題である。

### 参考文献

- [1] 松本勝久：情報検索入門ハンドブック，勉誠出版（2008）
- [2] 社団法人 日本書籍出版協会，  
<http://www.jbpa.or.jp/>
- [3] Amazon.co.jp, <http://www.amazon.co.jp/>